

つくしだより



平成26年7月号

東京都精神障害者家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www4.ocn.ne.jp/~tsukush/>

発行者 眞壁 博美

2014.7.15 第289号

新会長のあいさつ



都連会長

眞壁博美

このたび、6月20日の評議員会で会長に選任されました、立川麦の会長の眞壁博美です。私の娘は統合失調症を14歳で発症し間もなく41歳になります。娘の発病1年後に、「立川麦の会」をたちあげ、創立以来、26年間会長を続けています。東京つくし会の理事になったのは14年前からですが、2年間ほどは母の介護のため理事を降りていました。理事に復帰して1年後にこのような大役を担うことになりました。この9年間、野村前会長の献身的な活動に多くを支えられてつくし会は運営されてきました。昨年夏より野村氏退任の意向を受けた理事会では、後任の会長に仕事が集中しないように、約十ヶ月かけて三役会・理事会の組織改革を行ってきました。今回、長年理事を務めていただいた4名の理事が退任し、新たに1名の理事を迎えました。人数としては3名少なくなりますが、11名の理事が力を合わ

せて頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。

今年1月に日本でもようやく障害者権利条約が批准されました。しかし、条約が批准されても安心はできません。地域移行に逆行する「病棟転換型居住系施設」をつくろうとする動きが急速に進み、それにストップをかけるため、6・26緊急集会が日比谷野外音楽堂であり、私もその集会に参加しました。短期間の呼びかけにもかかわらず全国から3200名の参加がありました。病院の敷地の中に居住施設を新たにづくつたら、「障害者権利条約を守らなくていいという前例を作ってしまう」という危機感をもって、他の障害者団体の方々もこの集会に大勢参加してくれました。障害の違いを乗り越えて、「障害者の人権が守られ地域で安心して暮らせる社会をつくっていきましょう」という大きな目標をめざしたこのような活動は、今後の運動の方向を考える上で、大切な視点だと思えます。東京つくし会は全国精神保健福祉会連合会や他障害者団体、支援団体とも連携して活動を進めていきます。

東京都への要望書は、今年1月より取り組み、各単会より寄せられた要望事項を理事会でまとめました。7月14日の午後、榊添要一都知事宛と比留間英人教育長宛の要望書を渡し懇談します。この会には理事だけでなく、各ブロックからの参加者と共に要望活動をおこないます。

家族会の活性化については、家族会会員の努力はもちろんですが、行政・関係機関などの職員の支援（定例会に参加など）を要請することも考えていきたいと思ひます。家族は支援を受ける側だけでなく、家族会の存在を知らせて困難な人のニーズを行政にとどけ、地域に孤立している家族に情報を伝えることが大切です。今年度は、家族会の活性化をはかるリーダー研修会を企画します。各単会が活性化してこそ、東京つくし会としての社会的な影響力も増していくと思ひます。

障がいを持ってても高齢になっても市民として尊重され希望を持って安心して暮らせる社会をつくるために共に手を取り合せて歩みましょう。



精神病床の転換に関する居住系施設の問題点について

都連理事 鈴木孝男

厚生労働省は良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針等に関する検討会を行っていた。第6回(平25年10月)精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針等に関する検討会で岩上構成員から「長期在院者への地域生活の移行支援に力を注ぎ、また、入院している人たちの意向を踏まえ、また、病棟転換型居住系施設、例えば、介護精神型施設、宿泊型自立訓練、グループホーム、アパート等への転換について、時間的であることも含めて早急に論議していくことが必要。最善と言えないまでも、病院で死ぬというのと、病院内の敷地にある自分の部屋で死ぬこととは大きな違いがある。」と提案された。第7回検討会(平25年11月)では他の構成員から「病棟転換型居住系施設」について反対も含め多面的意見が出された。論議を受け厚生労働省は「地域の受け皿づくりの在り方や病床を転換することの可否を含む具体的な方策の在り方について精神障害者の意向を踏まえつつ、様々な関係者で検討する。」旨の記載を追加し検討事項とした。更に「地域移行をさらに進め、結果として精神科病床は減少し、地域の受け皿づくりの在り方や病床を転換することの可否

を含む具体的な方策の在り方について精神障害者の意向を踏まえつつ、様々な関係者で検討する」とまとめた。

厚生労働省はこの検討会の資料と論議を基に内閣府主催の第11回(平26年2月)障害者政策委員会資料配布と説明を行った。

平26年4月に「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的な方策に係る検討会作業チーム」を厚生労働省は立ち上げ、病床転換型居住系施設の検討を始めた。

これらの論議を受け私たちは問題を整理しておくことは重要である。基本的問題として、長期入院患者を作り、精神科医療と精神障害者福祉に対し民間中心で、人権を尊重せず、具体的施策を策定出来ず、問題を放置してきた原因は本人や家族、医療ではなく、過去からの貧弱な精神医療政策の結果であり、政府に責任がある事を前提としたい。

今回の「病棟転換型居住系施設」問題は精神医療・福祉に対し無策の中で浮上してきた苦肉の策で、本来別問題である「精神科病床の減少」と「患者の地域移行」を都合良く結び付けたに過ぎない考え方である。最も重要な「精神科病院からの退院促進」と入院前の居住地に住む「地域移行(処遇)」を「精神科病床の減少」による病院収入の減少の金銭的補てんに絡めて合体させた荒業に尽きる考え方である。検討会

の構成員はこの点を感じ取り、家族会の意見に代表されるように精神障害者の地域における環境整備を優先して行うべきとの意見があった。もし「地域移行II病棟転換型居住系施設」と考えるならば、東京の場合、精神科病院が偏在している多摩地区の市と23区のうち2、3の区に居住する住民が大量に増えることになり、患者の要望と関係なく家族が住んでいる住み慣れた地区から遠ざけられてしまう可能性が大きい。

本人にとっては病床転換型居住系施設への病室変更(転棟)が地域移行したと言えるだろうか疑問である。本来の地域移行とは隣に一般の人が住み、自分の意志と他人の意向で交流出来ることでもある。人権問題としては社会的制約があっても住む場所の選択は本人にあり、指示され、あてがわれるものではない。普通の街に住み、普通の生活をするために公立住宅を活用した居住の確保、経済補助、生活支援の確立、福祉事務所や保健所等の地域諸機関に精神保健福祉士の配置や保健師の増員を含めた専門職の人的充実、家賃補償、医療費の助成等経済的保障を確立させた医療・福祉施策を作成することが地域居住を支えるための最も重要な優先的課題である。私たちは長期入院者の退院促進を目指すため地域で暮らすための支援方法を具体的に要求し、提案することが重要である。

これからも

よろしくお願いいたします

前会長 野村 忠良

東京つくし会会長の任務を終えてい
心にあるのは、本当に素晴らしい方々
にお会いでき、心が通い、ともに懸命に
課題に取り組みさせて頂いたこの9年間へ
の感謝です。学ばせて頂くことがたくさ
んありました。皆様のお顔が次々に目の
前に浮かびます。お一人おひとりに、あ
りがとうございました、これからもよろ
しくお願いいたしますと、心からお礼を
申し上げたく思います。

特にご家族の皆様は、それぞれに大変
な状況におありですのに、自分の事より
社会で苦しんでいらつしやる家族と当事
者のことを思い、ほとんど無償で活動に
参加なさっています。どなたも純真な気
持ちを失わず真剣です。私は、そのよう
な方々とともに、人生の9年を過ごすこ
とができて本当に幸運であったと思いま
す。

それに比べて、政治のありさまには悲
しみと怒りを覚えています。これからも
家族の一員として、ご一緒に取り組みを
続けさせて下さい。

新役員体制

去る6月20日の評議員会で次のよ

うに役員が決まりました。

理事 11名 (50音順 *は新しい理事)

氏名	所属団体
植松和光	シュロの会 (国立市)
川崎洋子	大田つばさ会 (大田区)
後藤勝代 *	飛鳥会 (北区)
鈴木孝男	さくら会 (世田谷区)
塚本邦之	かたくりの会 (江戸川区)
徳山尚子	中央区つつじ会 (中央区)
本田道子	太陽の会 (渋谷区)
眞壁博美	麦の会 (立川市)
増田公子	FMHの会 (福生市、羽村市、 瑞穂町)
松澤 勝	練馬家族会 (練馬区)
松原のり子	あかね会 (昭和大学烏山病院)

監事 2名

三浦 勝之 ひだまりの会 (足立区)

小松田 博 葛飾たんぼぼの会 (葛飾区)

会長 眞壁博美

副会長 松澤 勝 ・ 川崎洋子

植松和光 ・ 本田道子

会計 松原 のり子



今年度は、役員体
制が大きく変わ
りました。長年務
めていただきました
野村会長、小笠原副
会長、石川理事、三
浦理事が辞められ
ることになりました。
本当にお世話にな
りました。私たち
を取り巻く様々な
問題に真摯に取り
組み、つくし会の
発展

に大きく貢献され
ました。感謝の気
持ちでいっぱい
です。ありがとうございました。

さて、眞壁会長
のもと、新しく
加わった理事と
共にこれから活
動をしていきます。
これから審議さ
れる医療保
護入院の家族等
の同意、雇
用率の問題、
精神科医療の
問題など、課
題は多くありま
す。

つくし会
はみな様の
ご意見を
今後の活
動に生か
し、わた
したち
に必要な
制度つ
くり
に取り
組み
たいと
考え
ていま
す。

これからも
よろしく
お願い
いたし
ます。
(新役員
一同)

私のほしいもの

都連副会長 本田道子

たとえば

すぐ近所にふらっと行ってみたくなるちいさな
たまり場。

そこではいつもにこやかなママがいて穏やかな空気が流れている。近所の方たちが我が家のようにリラックサしてコーヒーを飲みにくる。帰りにはそれぞれが一杯百円のコーヒー代を缶に入れてゆく。もちろん百円以上ならいくらでもかまわない。こどもを幼稚園にあずけてほっとしてゐる若いママたちのおしゃべりタイム。子育ての情報交換をしている。午後からは近所のおとしより。夕方は学校や作業所帰りの若者たち。おだやかな時間の中でそれぞれの時間を過ごしてゆく。たそがれてくるとお弁当を買ってきたり、キッチンで自分で作っている人もい

る。
ここでは自分たちでしっかりと片付けができればそんなことも許される。

こんなたまり場、ダイニングルームが近所になれば、なあ。

ゆるやかな見守りがあれば一人暮らしで親なきあとも生きてゆける。そんなサロンがあったらいいなあ。

講演会のお知らせ

☆日程:8/17(日)ここまでできる当事者の力
～るえか式心理教育&リカバリー～
講師:ひだクリニック院長肥田裕久氏 副院長木村尚美氏他
主催:シュロの会 042-7112-4061

☆日程:9/13(土) みんなでやろう 家族SST
あなたの力が家族を変える
講師:SST(社会生活技能訓練)リーダー 高森 信子氏
主催:あじさい会 Tel:042-388-2728

☆日程:9/13(土) 発達障害の子とハッピーに暮らすヒント
～4人のわが子が教えてくれたこと～
講師:発達障がい～支援・ハッピーサポート代表
自閉症スペクトラム支援士 堀内 祐子氏
主催:西多摩虹の会 090-1882-0306

※参加申込み、お問合せは、それぞれの主催者までお願いいたします。

ありがとうございます。

東京パトロール様	2口	10,000円
高野 喜代子様	1口	2,000円
匿名希望	10口	20,000円
今井 康夫様	1口	2,000円
岩崎 明美様	1口	2,000円
鈴木 新治様	1口	2,000円

★賛助会費★

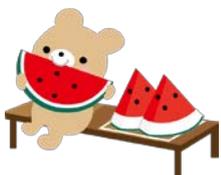


編集後記

障害者の権利に関する国際条約が今年になって批准され、実施されるようになりました。この条約の主旨は、障害者も一般市民と等しく人格(パーソナリティ)を持ち、それに相応しい生活を享受できるよう保証するものです。実際の社会分野ではまだ障害者への偏見や差別が根強く蔓延しているでしょうが、心ある人たちの努力によって改善されるでしょう。

全ての人が等しく人格を持つという思想は、決して最近の発想ではありません。紀元前五世紀に遡りますが、古代ギリシャではアテナイのディオニソス神殿の祭事に演劇の奉納が始まりました。そしてその演劇に登場するすべての俳優は素顔ではなく、仮面(ペルソナ)を顔面に付けていたのです。その仮面はひとつとして同じものではなく、それぞれの俳優の役割を示していました。この仮面のペルソナこそが、現在の人が持つ人格を示す「パーソナリティ(英語)」の先駆け語源ともなったのです。

都連理事 塚本邦之



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。